

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800691		
法人名	株式会社 光福祉サービス		
事業所名	和やか わじろ		
所在地	福岡市東区和白6丁目1番20号		
自己評価作成日	令和6年11月23日	評価結果確定日	令和6年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市南区井尻 4 - 2 - 1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

施設周辺は集合住宅を中心とした宅地建設が進んでいますが、昔からの戸建ても多く、田畑などの自然豊かな地域です。近隣には、救急病院や診療所等の医療機関、公民館や郵便局等の公共施設があり、歩いてお買い物に行くことが出来るスーパーやコンビニ、散歩に行ける公園などがあります。日々の調理は行いませんが、ご飯は施設内で炊き温かい食事を提供できるよう、食器は陶器にして盛り付けにも工夫を施し、家庭的な環境で食事が囲めるようにしています。季節に応じた行事を行い、また四季折々の風景や季節感を感じて頂けるよう、近隣への散歩・菜の花・桜・コスモスなどの見学やドライブに行っています。道路に面した1階の庭にはゴーヤを植え、フロア内からはゴーヤカーテンが見えて、とても和みました。ゴーヤの隣にはキュウリ・ピーマンや花なども植えゴーヤやキュウリは皆で食べました。1.2階合同でラーメン屋・おでん屋など季節行事以外にもイベントを行っています。今年は念願の近隣保育園との交流も出来、敬老会に園児さんに来て頂き、涙を流して喜ばれる方もいらっしゃいました。今後も多く交流させて頂きたいと思います。

事業所の周辺は閑静な住宅街で、通りに出ると金融機関やスーパーマーケット、飲食店、医療機関等、生活していく上で社会資源に囲まれた場所に「グループホーム 和やか わじろ」は建っている。徒歩圏内にスーパーマーケットがあるため散歩を兼ねて、利用者と一緒に買い物に行ったり、季節に応じて花見やコスモス見学、イルミネーションを見に行く等外出レクリエーションを実施している。また、レクリエーションや料理等、職員の特技を生かして、様々な行事を実施しており、楽しんで過ごしていただけのように工夫している。協力医とは連携しやすく、看取り介護も実施しているため、利用者が重度化しても状況によっては最期まで対応できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有ができるように、各フロアの入り口・カウンターに置き、社員証裏面の記載や、入社時、ミーティング・会議などで管理者が伝え、実践できるよう心掛けています。	各ユニットの出入り口と各ユニット内にも理念を掲示していて、職員がいつでも見る事が出来るようにしている。理念は法人の理念で各事業所共通の理念である。社員証の裏側にも理念を入れている。新人研修時や月1回のユニット合同のミーティングの際にも理念の確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や、近隣保育園との交流も今年は出来たので、今後はもっと機会を増やしていきたい。	近隣の保育園が敬老会の時に来ていただき、園児に踊ってもらったり、利用者に園児が付いてくれ一緒に行事を楽しんだ。また、園児さんの散歩を見かけた際には手を振ったり等、コミュニケーションを図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護支援の相談窓口となるようにしている。今後は公民館主催の講演会にも参加していく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居状況・施設内での行事・活動報告・身体拘束についても討議している。参加者様より地域の情報などを伺い、今後地域行事も参加していく。ご家族様の参加もあり直接意見を聞くことも出来ている。	利用者家族、町内会長、公民館館長、老人会長、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が出席している。2か月に1回、会議を開催して会議録を作成している。市町村の参加はないが、毎回、開催案内を出したり、会議録を提出したりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告時や介護保険関係の申請時に連絡を取り、その都度アドバイスなどを頂いている。疑問点などはその都度相談している。	介護事故報告があった場合は、区役所に提出をしている。また、介護保険の更新申請や区分変更申請が必要な際は代行申請をしている。生活保護受給者が2名いるため、ケースワーカーと連携を図っている。また、おむつサービスの申請を代行する事もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【身体拘束などの適性のための指針】を整備し、職員全員がいつでも目を通すことができるようにしている。 「身体拘束排除宣言」をしており身体拘束廃止委員会でも話している。	身体拘束している利用者はいない。センサーを利用されている利用者があるため、使用する際は家族の了承を得て、ケアプランに記載して同意を得ている。「身体拘束等の適正化のための指針」「身体拘束排除マニュアル」を作成している。また、身体拘束廃止委員会を2か月に1回開催している。	センサーを利用している理由を職員間で検討しているとの事ですので、検討した内容を会議録に記載してはどうだろうか。	

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	系列施設と研修資料を共有・活用し、他職員にも周知している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っているが、きちんと活用できるよう理解を深めていく。	権利擁護に関する研修は内部研修で実施している。成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している利用者はいない。成年後見制度の資料は説明用や手渡し用で資料を準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書・重要事項説明書を読み合せ、内容について疑問や質問を受け説明し、理解して頂けるよう心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望には日頃から耳を傾け、ご家族には面会時やお電話をした際に意見・要望を伺い、職員に申し送っている。各フロア入口にご意見箱を設置している。	運営に関しての意見は、利用者及び家族から頂戴する事はなかった。各フロア入り口に意見箱を設定して意見を吸い上げられるようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングで出た意見や提案は検討し、欠席者にも議事録や口頭で伝え、共有事項に関しては申し送りや記録を残し、運営に反映できるように心がけている。	毎月のミーティング以外に座談会を不定期に開催している。職員から、利用者の身体状態に応じての必要な福祉用具が欲しいなど意見が出た際には、再度必要性を確認した上で購入してもらう等、現場での意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の努力や実績・勤務状況を把握するようにしている。家庭事情を優先出来る様に希望休を月に3回受けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別・年齢・経験にこだわらず募集・採用している。個々の能力や得意な分野を発揮し生き生きと勤務できるよう、心がけている。	10歳代から70歳代の職員が勤務している。職員によっては得意分野を持っている人もいる。その職員を中心にレクリエーションや料理等職員で協力しながら業務をしている。利用者が喜ばれるような物を作ったり、レクリエーションをしたりしている。	

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇面など、その都度その場で注意をし改善出来るように心がけている。利用者の立場になって考え尊重出来るように、指導を心がけている。人権・同和問題についての研修を行っている。	利用者と接する時の言葉遣いや、来客者や見学者等にもきちんと挨拶をする様に職員に促している。内部研修としては、資料を用いて人権・同和問題についての研修を実施している。研修に参加出来なかった職員には各職員に研修後のアンケートを実施して振り返る機会を持っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト調整を行い、できるだけ研修に参加できるように心がけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域連携会議(東1勉強会)に参加予定である。東区主催の東区グループホーム情報交換会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、ご本人やご家族と面談を行い、生活歴などの情報や、要望を聞き、ご本人が安心出来るサービスに繋げていけるよう、心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問合せの段階より、要望に耳を傾け、施設に対する不安を取り除けるように努め、安心してサービス導入出来るよう心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の情報を元に、暫定のサービスを作成し、利用開始後に状態を考慮しながら、必要なサービスの提供、変更が出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を大切にし、ご自分で出来ることは、して頂くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品の購入や、病院受診・面会などの面で協力して頂き、ご家族との関係も大切にしている。		

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いのあった方より、定期的にお手紙が届いたり電話で話されたりしている。	入居される前からお付き合いのある知人や友人、家族等と手紙や年賀状のやり取りをしている利用者もいる。携帯電話の所持はして頂かないようにしており、利用者と電話をする際は、事業所の電話でお話をさせていただくようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの配席を工夫し、利用者が孤立しないような声かけ・環境作りに努め、互いに関り支え合えるような支援を心がけている。居室に閉じこもることが無いようにも心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不十分ではあるが、利用終了時にも相談や支援できるよう、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話の中から、希望や意向を汲み取り、サービス計画の変更時には、ご本人とご家族に希望や意向を伺い、現場からの意見も集約し、希望に沿った支援を心がけている。	利用者の中には意思疎通が難しい方も多いが、日常生活の中で会話をする中から意向を少しでも汲み取るようにしている。また、家族の方から好きな食べ物等をお聞きして可能な限り対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、利用開始時のサービス事業者や病院・施設・馴染みの方などからの情報収集を心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護日誌、日常の行動などを通して情報共有し、現状の把握が出来るよう心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りを通して情報共有に努めている。状態の変化や、問題が起こった場合は職員間で話し合い、ご家族には面会時や電話で相談し、希望や要望を伺い、現状に合った介護計画の作成に心をかけている。	2ユニット同じ計画作成担当者がケアプランを作成している。アセスメントやサービス担当者会議の運営、ケアプラン作成やモニタリング作成等の一連のケアマネジメント業務は計画作成担当者が実施している。計画作成担当者は現場の介護職等から意見を聴いてケアプランに反映している。	

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にケアの方法や、気付いた事を細かく記入し、個別記録にも様子や変化を詳しく記録している。申し送りで伝達し、職員間で情報共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方や高齢でなかなか面会に来る事が出来ない場合は、日用品や必要な物の買い物に職員が代わりに行っている。また、必要に応じて行政サービスの代行も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前交流のあった方からの定期的なお手紙や電話などで、交流を楽しまれている。今年は近隣の保育園とも交流でき、とても喜ばれた。今後も交流を増やしていきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前にご本人とご家族へ病院について相談し、ご希望のかかりつけ医を選んで頂いている。歯科・眼科・皮膚科・外科などについても必要に応じて受診をしている。日頃より提携医との連携を密に取り、家族に対しても医療情報の報告を随時行っている。	入居前からかかっている医師に診ていただきたいと希望がある場合は、家族の希望に添うようにしている。ただ、協力医の訪問診療の説明をすると協力医にお願いしたいという家族の希望が多い状況である。他科受診に関しては、日頃の状況を良く把握している事業所職員が対応をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや記録、関わりの中で身体の変化や異常に気付いたら、定期受診日以外でも主治医に情報を伝え相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供を行い、退院時には情報やアドバイスをもらっている。退院前カンファレンスにも出来るだけ参加し、後の支援に活かすようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に「重度化対応・終末期ケア対応指針」の同意書を得ている。終末期については、職員での話し合いや、家族と主治医を交えた話し合いを行い、方針を共有している。	看取り介護の対応をしている。入居前に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を基に皆様に説明をしている。協力医も看取り介護に対応してくれているため、また、24時間対応であるため、協力医との連携が図りやすい状況である。協力医と利用者家族、事業所職員等と看取り介護に関しての話し合いの場を持っている。	

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、職員には、普通救命講習受講するよう声掛けをしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を年2回、災害避難訓練を年2回実施している。夜間を想定した訓練も行っている。災害が起きた場合は、自治協議会(公民館)に連絡し、協力を依頼している。備蓄物の水や食品も定期的に賞味期限などを確認している。	火災訓練、土砂災害訓練、風水害訓練、地震訓練を年2回総合的に実施している。夜間想定訓練も実施している。屋外に非常階段があるため、屋外に避難する訓練も実施している。消火器を持って模擬訓練を実施している。水やレトルト食品を備蓄している。自治会長等、運営推進会議に出席している方は、避難の際に協力していただけるように声かけをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で、気になる言動や対応があった時には、お互い注意し合ったり、管理者から都度指導するようにしている。利用者の尊厳を尊重するよう心がけている。	利用者は、人生の先輩であるという気持ちを持つようにし、言葉遣いについては丁寧に話すように心がけている。職員同士の言動や職員と利用者間等のやり取りで気になる言動があった場合は、気をつける様にしている。排泄介助時にはプライバシーを守るためにドアを閉める様にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	機能訓練や、レクリエーションは幾つか選択出来るようにし、自己決定出来るよう心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で行う体操や、食事の時間は一緒だが、個人のペースや希望を尊重するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服はあるが、毎日同じ服にならないよう配慮している。訪問理美容ではご希望に沿って行っている。髭剃りや、お化粧マニキュアの支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	陶器の食器を使用し家庭的な雰囲気を大切にし、盛り付けや温かいうちに召し上がってもらえるよう考慮している。調理レクでは、利用者の要望を反映させメニューを決め、出来る方には調理を手伝って頂いている。	食事は配食を利用しており、盛り付けや配膳等は職員が対応している。調理レクやおやつレクは定期的に実施しており、ホットプレート等を使用して利用者の目の前で焼きそばやどら焼き等を作り、雰囲気を味わっていただけるように工夫をしている。ゴーヤやきゅうりを育てたことがあり、食事の際に提供している。	

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量の記録をもとに、摂取量が少ない場合は、本人の好みや食事形態・味などを工夫し、対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・誘導を行い、出来るだけご本人にして頂き、仕上げをさせて頂いている。口腔ケアが不十分な方は訪問歯科を利用し、口腔内の清潔保持に努め歯科医師からの指導も頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録をもとに、個々の排泄パターン・習慣の把握に努めている。改善点がある場合には、職員で話し合い、変化に対し適切な対応が出来るよう心がけている。	排泄チェック表を記載して排泄間隔を観察、把握し、トイレ誘導の介助の時間を工夫することで、失禁する回数が少なくなった事例が多くある。排泄をおむつに頼らずに極カトイレで排泄が出来るように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便間隔を把握し水分量を調整している。摂取量が少ない方には、好みの飲料を提供したり、乳製品・食物繊維の多い食品などを提供し、なるべく薬に頼らず自然排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、ご本人の希望や必要に応じて、時間や曜日を変更して対応している。楽しんで入浴して頂けるよう、好みの入浴剤を使用したり、入浴時の皮膚観察も欠かさず行っている。	入浴は週2回実施している。各ユニットに浴室が各1か所あり、個浴対応している。浴槽をまたぐ事が難しい利用者はシャワー浴を実施している。利用者の希望があれば入浴剤を使用する事もある。利用者が入浴を嫌がられる場合は、曜日をずらして対応をしている。同性介護を希望される場合は対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って、居室で休息される時間を設けている。消灯時間は決めておらず、個々の生活習慣に合わせている。室内温度調整や、湿度にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情報は利用者ごとに保管し、全職員が確認できるようにしている。それぞれの薬引出しを設置し支援を行っている。症状変化や薬の変更があった際には、申し送り・日誌記録などで連絡確認の徹底に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、掃除、食器洗い、新聞折りなど、役割を持って頂いている。天気の良い日には散歩に出掛けたり、手作りおやつを食べたり、気分転換を図っている。		

R6.12自己・外部評価表(事業所名GH和やか わじろ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩などに出掛けている。家族との外出も行っている。今後は、地域カフェ参加やご家族との外出を増やす支援をしていきたい。	事業所周辺の散歩は日常的に行っている。利用者と一緒に散歩を兼ねて買い物に行ったり、花見や花火、イルミネーションを見に行ったりしている。近くの公民館で地域カフェが開催されているので、今後参加してみようと企画している。	近くの公民館で開催されている地域カフェに参加する機会を持てはどうか。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にはその利用者の希望や能力に応じて、ご家族に「金品に関する同意書」を説明後お渡しし、紛失などのトラブル回避に努めている。必要の際には、ご家族にお伝えするようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人の希望時にはいつでも使用できるようにしている。以前よりお付き合いのあった方やご家族より、定期的に手紙が届く方もおられ、お電話でも話されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が不快や混乱を感じることの無い様、テレビの音量を調整したり、カーテンや照明で日光や明るさの調整を行っている。トイレや浴室は毎日掃除・換気を行い、清潔保持している。整理整頓に努め、危険物の保管や排除にも配慮している。壁面には手作りの季節に合った作品を飾り、季節感や居心地の良い空間づくりに努めている。	共用部分には、テーブルや椅子、テレビ、ラジカセ、洗面台、トイレ等がある。季節に対応した飾り付けがしてある。洗面台が複数あり、利用者の身長に合わせて高さの高い洗面台と高さの低い洗面台が設置されている。トイレ内は、箇所によって色やデザインの異なった壁紙となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方のニーズに沿って過ごして頂けるよう、希望の席やソファーに着き、過ごしやすい居場所が出来よう心がけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前に、ご家族にはご本人の使い慣れた物・好みの物をお持ち頂けるよう相談し、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	介護用ベッド、電灯、カーテン、箆笥、エアコン、ハンガーラックは事業所が備え付けている。利用者の中には、仏壇、写真、ぬいぐるみ、お花、作成した作品等を飾っており、利用者にとって落ち着くことの出来る空間づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ・浴室に手すりを設置し、安全に移動して頂けるようにしている。リビングには、ご利用者が活かしたお花を飾ったり、日めくりカレンダーを設置し、日にちが分かるようにしている。		